

特産農産物の生産奨励で遊休農地を解消

(奈良県・黒滝村農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

- 奈良県南部の吉野川(紀の川)支流である丹生川の源流部に位置し、河川周辺の僅かな平地や山麓斜面に民家や農地が点在して集落を形成している典型的な渓谷型山村。山林が村の面積の約97%を占め、耕地面積は0.7%の33ha(うち水田6ha、畑27ha)である。
- 平成27年の国勢調査人口は660人であり、年少人口である0才~14才については減少傾向が加速化し、直近10年間で66%も減少している。高齢化率も49.4%と高い数値を示しており、担い手の不足、遊休農地の増加が懸念される。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○6次産業化の先駆事業として、こんにゃく芋の生産奨励を行い、村内事業所での買い上げと加工販売ルートを確認し、こんにゃく種芋の購入補助事業を平成17年度から展開。平成30年度は村内生産者27名200kgの購入を補助している。遊休農地の解消と生産者の所得向上に努めている。

○6次産業化事業として、黒滝白きゅうりの生産奨励を行い、加工販売団体の設立と買い上げルートの確立に協力する事業を平成29年度から展開。立毛品評会を主催し、平成30年度は村内生産者17名が参加、生産意欲と技術の向上を図り産地の育成に努めている。

3 活動(取組と工夫)の結果

○こんにゃく芋の生産が浸透し、加工販売の好調も手伝い「黒滝こんにゃく」のブランド化に貢献している。黒滝白きゅうりについても生産者が増加し、生産農家の所得向上だけでなく、高齢者の生きがいづくりにも貢献している。